

「アオちゃん」

—初稿—

2025/12/28

〈人物表〉

姉崎 瑞希 (28)

求職中

佐藤 蒼 (29)

瑞希の友人

1. 瑞希の自宅（夜）

姉崎瑞希（28）、ベッドでゴロゴロとスマホで動画を見ている。

と、「選考結果のお知らせ」のメール。

「この度は誠に残念ながら……」の文面。

瑞希、ふっと一つ、息を吐く。

2. 喫茶店・外観（昼）

どこにでもあるチェーンの喫茶店。

3. 喫茶店・内（昼）

ガツガツとケーキを突いて食べる佐藤蒼（29）と、向かいで丁寧にケーキを食べる瑞希。二人とも、部屋着に毛が生えたようなズボラな格好。

店員、空になった二人のコップにお冷を注ぐ。

蒼、ハッとそれを見て、神妙な感じで語り出す。

蒼 「歯医者さんのさ、お水飲むコップあるじゃん」

瑞希 「え？」

蒼 「ほら、飲んで、置いたら、すぐお水入れてくれるやつ」

瑞希 「あー、あれか」

蒼 「うん。あれってさ、便利だよな」

瑞希 「うん、まあ？」

蒼 「だってお家にあつたらさ、好きな飲み物入れてエンドレスで飲めるじゃん？ すごく良くない？」

瑞希 「えっとー」

蒼 「あれどこで売ってんだろ」

と、考え出す。

瑞希 「……あれ、飲んでるの？ うがい用じゃないの？」

蒼、聞いておらず、至って真剣な表情で思案。

瑞希、一呼吸あって愛想笑いで、

瑞希 「んー、家電量販店、とかかな？」

蒼 「え、何で知ってるの？」

と、純粹な驚き。

蒼 「歯医者さん行ってるから？」

4.

帰り道（昼）

二人、並んで歩いている。

瑞希 「さっきのケーキ美味しかったねー」

蒼 「ねー」

瑞希 「アオちゃん明日さ、映画観に行かない？」

瑞希M 「アオちゃんの映画の感想を聞くのは時々映画より面白い」

蒼 「明日仕事」

瑞希 「あ、そうなんだ？」

蒼 「うん」

瑞希 「アオちゃんって、今なんの仕事してんだっけ」

蒼 「事務」

瑞希 「あー、そだったね」

瑞希M 「アオちゃんの仕事はいつ聞いても『事務』。それ以上は

知らないし、知られたくないのかも、とすら思う」

蒼 「冬ってさー、みんな暖房付けてるのに何でこんな寒いんだろうね」

瑞希M 「そしてアオちゃんがちゃんと働いてることにいつも驚く」  
突き当たりに来て、

瑞希 「いや、分かんないけど」

蒼 「え、今度聞いたいて。値段とかも」

瑞希 「……うん」

蒼 「姉崎なら、何入れる？」

瑞希 「ビール、とか？」

蒼 「私も炭酸系がいいと思う」

思いの外、力強い共感。驚く瑞希。

蒼 「普通のコップだとさ、炭酸抜けてっちゃうじゃん？」

と、飲み終わりのコーラを一口飲む。

蒼 「あれだったら、小さいから一口で飲めるし。で、またす

ぐシュワシュワじゃん？」

瑞希 「あー、なるほどねー」

と、ケーキを食べつつ蒼に適当に合わせ、会話を続けていく。

瑞希M 「アオちゃんは昔から、こういう子なんである」

蒼 「じゃ、ここで」

瑞希 「うん。また」

瑞希、笑顔で手を振り、蒼を見送る。

瑞希M 「かくいう私も働いてたりいなかったりいなかったりなので、アオちゃんなりの気遣いかと思って、何も言わない」

瑞希、一人で帰路に着く。

瑞希M 「それが私の小中の同級生で、今や唯一の友人なのである」

## 5. 歯医者（昼）

歯科医 「はいお口ゆすいでくださーい」

瑞希、歯医者で治療を受けている。

ふと右手の紙コップに目をやり、固まる。

歯科医 「どうしましたー？」

瑞希 「あの一、これって」

歯科医 「え、何ですか？ どっか痛いですかー？」

瑞希、我に返って、

瑞希 「あ、いや何でもないです」

歯科医 「？」

瑞希、口をゆすいで紙コップを元の場所に置く。

歯科医 「はい倒しまーす」

と、リクライニング。

瑞希、置いた紙コップにすぐさま水が注がれるのを見ている。

と、瑞希の携帯に着信。

瑞希、ポッケの携帯に手を伸ばそうと、もがく。

歯科医 「どっか痛いですかー？」

## 6. 歯医者の前（昼）

瑞希、通話中。

瑞希 「今歯医者終わったとこ。なに？ モバイルバッテリー？」

と、鞆をガサゴソしてモバイルバッテリーを発見。

瑞希 「ごめん昨日借りたまんまじゃん」

瑞希、ボタンを押すと、十分充電は残っている様子。

瑞希 「え、今から？ あー、うん。いいけど？」

7. オフィス街・交差点の角（昼）

瑞希、壁沿いに立っている。

街ゆく人々は、スーツ姿のビジネスマンや、長財布片手にランチに繰り出すOLばかり。

ほぼ部屋着姿の瑞希、やや浮いていて、恐縮気味。

蒼 「姉崎ー？」

と、そこにはビシッとビジネスカジュアルで決めた蒼。打って変わり、しっかりメイクもして小綺麗。

瑞希、あっけに取られて蒼の格好をジロジロ。

蒼 「ごめんわざわざ来てもらって。姉崎？」

瑞希、我に帰って、

瑞希 「……大丈夫。たまたま近くに来てたから」

蒼 「ならよかった」

瑞希、目のやりどころに困っていると、

蒼 「メシ、行く？」

蒼の手には、革の長財布。

8. レストラン（昼）

二人の足元、瑞希のサンダルと蒼のパンプス。

オフィス街の眺望を望める高層階のレストラン。フ

ォーマルな服装の客ばかり。穏やかなジャズの音色。

瑞希、縮こまってキョロキョロしている。

と、料理が運ばれてくる。小鉢が沢山付いてる定食。

ウェイター「ごゆっくりどうぞ」

瑞希、ぎこちない愛想笑いで返事。

蒼の右胸には名札。「佐藤蒼」の字。

瑞希 「あのさ」

蒼 「ん？」

瑞希 「……アオちゃんってさ」

蒼 「あ、歯医者さん聞いてくれた？」

瑞希 「え？」

蒼 「コップ、どこで売ってるか。あといくらか」

瑞希 「……あ、ごめん」

蒼 「なんだよー」

と、蒼、手を合わせてからガツガツと食べ出す。

瑞希、蒼を見て吹き出す。安堵。

蒼 「え？」

瑞希 「ん、ごめん、聞いとくね」

蒼 「姉崎何笑ってんの」

瑞希 「ううん」

蒼 「は？」

瑞希 「何でもない」

瑞希、食べ出す。

蒼 「そういやさ、加湿器ってお湯沸かしてるのになんで部屋

ごと暖かくならないんだろうね」

瑞希M 「アオちゃん、あなたが着ているのはそんな話をしてたら

殺される部族の装束じゃないのか」

瑞希 「ん？」

蒼 「だってさ、お風呂場の中はあったかいわけじゃん」

瑞希 「お湯の量が違うからかな」

蒼 「あ、そっか」

瑞希M 「アオちゃん、どうしても家電の話ばっかしてるんだ」

瑞希 「うん」

蒼 「じゃあ風呂みたいなデカイ加湿器があればいいのか」

瑞希M 「ありがとう、アオちゃん」

瑞希 「そんなの部屋に置けないよ」

蒼 「……そこなんだよ」

と、真剣な顔で思案。

瑞希、それを見て、満足げな顔。

## 9.

### オフィス街（昼）

蒼 「助かったわ。ありがとう」

瑞希 「うん」

蒼 「じゃ」

瑞希、手を振って蒼を見送り、踵を返して歩き出す。

ふと、鞆の中を見ると、モバイルバッテリー。

急いで再び踵を返すも蒼、角を曲がり見えなくなる。

瑞希、追いかける。  
角。蒼、どこか建物に入っていくのが見える。

## 10. オフィスビル（昼）

瑞希、立ち止まって建物の前。  
見上げるほどのオフィスビル。  
蒼、エレベーターに乗り込むの見える。  
追いかけるも間一髪、ドアが閉まる。  
蒼のエレベーター、五階で止まるのを確認。  
咄嗟に壁のフロアガイドを見て、五階テナントを確  
認しようとするも、ハツとして両手で目を塞ぐ。  
踵を返し、立ち止まる。周囲の目線。

瑞希M「いかんいかん」

## 11. 瑞希の自宅（夜）

ゴロゴロとベッドでスマホをいじっていると、蒼か  
らメッセージ。  
「モバ充渡すの忘れた」の瑞希のメッセージに、  
「アホじゃん」と蒼から返事。  
瑞希、笑う。  
続いて「今度、映画の時ね」と蒼から返事。  
「オッケー」と返事を送る。

（おわり）